

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1 2

開催地：八代市金剛校区

平成 19 年 6 月 19 日（火）、八代市金剛校区（会場：金剛公民館）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	19 名
市外	2 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・（計画高水流量の検討にあたり）人吉の河床掘削と引提を組み合わせた場合の検討を行っているか。
- ・河床掘削時に人吉層が露出する問題が生じるとのことだが、必要な量の掘削を行った後に、河床部をセメント、砂、石などで補強する計画を考慮したことはあるか。また、砂や砂利の層が必要ならば、余分に掘削した後に砂利や砂を戻して補強を行い、鮎が生息できる状態に戻すような計画、計算を考慮したことはあるか。
- ・基本高水流量の計算の際に、なぜ S40 年洪水がはずされたのか。
- ・小委員会では、想定外の大洪水にどのように対応したらいいかといった検討はなされたのか。
- ・基準点が何故、萩原地点から横石地点に変更されたのか。
- ・なぜ計画降雨継続時間が 2 日間雨量から 12 時間雨量に変更されたのか。

【球磨川の治水対策について】

- ・住民討論集会の議論では、人吉の市街部の上流からバイパスをつくって、その間に人吉区間を掘削するという案があったが、小委員会の中では議論されたのか。
- ・人吉において河道で流す流量を増やすと中流部で再度の嵩上げ工事が必要とのことだが、坂本地区だけでみると数世帯であり、H18.7 の洪水でも坂本地区の嵩上げをしたところは大丈夫だった。
- ・人吉市街部で、バイパスと下水道整備を併せてすすめれば効果的ではないか。また、河床掘削、堤防嵩上げ、ため池整備などを組み合わせた計画の検討を行ったのか。
- ・ある箇所を掘削してもその上流、またその上流とすすめていかなければならない。何度やっても同じ、最上流の山の方から削っていかなければできない。山を平らにするようなもの。
- ・球磨川で抜本的な治水対策をするならば、掘削ではだめ。
- ・坂本地区の浸水被害には荒瀬ダムの影響は無いのか。
- ・中流部の対策は早急に進めるべき。
- ・S40 年洪水では金剛橋が流されており、地元で大きな被害をもたらした。S40 洪水に対応した河川整備計画を作らないと再びあのような被害が起きるのではないか。
- ・ダムや堤防を造っても（想定外の外力がくれば）、S40 のような災害がおこるのではないか。
- ・台風時の高潮を考慮した治水計画が立てられているのか。
- ・堤防の上にあげた舟が濁流によって流された経験をしたことがあるが、その時に上流のダムの放流が原因だと聞いた。
- ・満潮の時間を考慮したダムの放流操作が行われているのか。
- ・ダムが八代にとって洪水調節の効果を発揮できる確実性は無いのではないか。
- ・昨年洪水は横石地点では何 m³/s 流れたのか。
- ・この橋のここまでくれば何 m³/s というふうに、どのくらい流れたらどこまで水位が上がるか目安として教えて欲しい。

【球磨川の環境について】

- ・河床に砂利が無いと鮎が育たない。
- ・昔のように水島から水が出るように水脈調査や対策を行って欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

